

全協No.1

市議会全員協議会資料
令和3年5月28日
(企画部 企画振興課)

中町／宇品航路の船舶の更新について

1 概要

- 令和元年6月、市は、(一財)地域公共交通総合研究所(以下「地公総研」)に対し、中町／宇品航路を就航している船舶の更新の必要性の判定について委託しました。
- その結果、地公総研からは、2隻の更新を推奨するとの報告を受けました。
- これを受け、船舶の更新に関する仕様と日程の概略案を取りまとめました。

2 中町／宇品航路を就航する船舶

市が所有する高速船3隻は、エンジンの換装を行っているものの、進水から30年近い年数が経過しています。

3 報告書の概要

地公総研からは、船舶更新の必要性等について、次のとおり報告がありました。

(1) 船舶の現況

- 船体、エンジン等はよく整備されており、耐用年数は10年以上あると判断できる。
- ただし、主機関であるヤンマーI2LAK-ST2は約10年前に製造停止となっている。
- 現行の主機関はサイズアップされており、市所有船に取り付けることができない。
⇒主機関の部品供給の終了を見越して、順次船舶を更新することを推奨する。

(2) 船舶に対する判定

- ◆ニュー千鳥：3隻のうち、最初に更新することが望ましい。
【理由】・主機関の換装(H13)から最も年数が経過しており燃料消費が多い。
- ◆ロイヤル千鳥：3隻のうち、ニュー千鳥の次に更新することが望ましい。
【理由】・座席数が最も少ない。
- ◆スーパー千鳥：当面は継続使用することが望ましい。
【理由】・3隻のうち、最も船舶の状態が良い。朝夕の主力船舶として使用できる。
※なお、令和2年度から更新に着手する場合の想定スケジュールは次のとおり。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ニュー千鳥更新	仕様書作成	発注・起工	進水・引渡		
ロイヤル千鳥更新			仕様書作成	発注・起工	進水・引渡

(3) 更新が望ましい船舶のサイズ

- ◆ニュー千鳥：124総トン型双胴船高速旅客船(150名定員)
- ◆ロイヤル千鳥：65総トン型双胴船高速旅客船(99名定員)
【理由】・現在の乗降客数は、上記の座席数で対応が可能である。
・運用実績及び経費節減の観点から、3隻のうち1隻は小型化を推奨する。

4 検討の状況

市は、指定管理者及びアルミニウム合金製高速船の建造実績のある県内の2造船所と、まず150名定員の新造船の仕様案について協議検討を行ってきました。

【協議先造船会社】瀬戸内クラフト株式会社(尾道市向東町)
ツネインクラフト&ファシリティーズ株式会社(尾道市浦崎町)

(1) 仕様の概略案

- 仕様概略案のポイントは次のとおりです。
 - ・双胴船とすることで客室の安定性を確保する。
 - ・船舶のサイズは現行と同程度とする。(バリアフリー法に適合させるため、旅客定員は減少。)
 - ・中町航路のダイヤを遵守するため、航海速度は24ノット以上を確保する。
 - ・修繕費や燃料費を削減するため、より小型の国内製エンジンを搭載する。

	150名新造船 仕様概略案	ニュー千鳥 (更新対象)	スーパー千鳥	ロイヤル千鳥 (更新対象)
船型	双胴船	双胴船	双胴船	双胴船
総トン数	90	79	92	79
進水年月	—	平成5年9月6日	平成9年6月11日	平成5年7月30日
建造造船所	—	大阪 三保造船所	大阪 三保造船所	大阪 三保造船所
全長(m)	24~26	26.08	26.08	26.08
幅(m)	5~7	6.8	6.8	6.8
深さ(m)	2.3	2.3	2.3	2.3
航海速度(ノット)	24以上	26	26	26
最高速度(ノット)	26以上	30.2	33.9	30.2
旅客定員 1.5H未満	150人	220人	223人	188人
機関型式	ヤンマー6AVES-GT2	ヤンマーI2LAK-ST2	ヤンマーI2LAK-ST2	ヤンマーI2LAK-ST2
出力	829ps×2基	1,100ps×2基	1,100ps×2基	1,100ps×2基

(2) 船価

- 造船所2社による大まかな見積もりは、約4億5千万円程度とのことでした。
- 造船費用の充当財源は、財政課において、過疎債、公営企業債、公共施設整備基金の活用を検討していくこととします。

5 今後の予定(見込)

(1) 150名定員新造船

現在想定している建造スケジュールは次のとおりです。

※ただし、造船所の船台の空き状況によって、変動する可能性があります。

時期	内容
令和3年6月	6月議会に造船費用に関する予算案上程
7~9月	公募型プロポーザルにより受注者を選定
10~11月	細部の調整
12月	12月議会に本契約に関する議案上程
令和4年1月	契約締結、起工
令和4年度後半	進水、試運転、就航

(2) 99名定員新造船

市の財政負担の平準化を図るため、発注は、令和5年度を見込むこととします。

6 その他

- ・新造船の就航により不要となる船舶は、売却を行っていきます。
- ・船舶の更新に際しては、地公総研から、仕様の確認その他のアドバイスを受けつつ作業を進めることとしています。